

首座法戦式

しゅそほっせんしき

お釈迦さまが定められた制度に従い、集まった修行僧の先頭に立つ「首座和尚」として東麻布・瑠璃光寺徒弟、久保恭男上座が、住職に代わり禅の修行や悟りについての問答を交わしました。この儀式は、首座にとっては一人前の宗門の僧侶となるためには必ず一度は通らなければならない関門であり、また、一寺の住職として結制安居（首座法戦式）の修行を終えた新命住職は、「大和尚」と呼ばれるようになります。

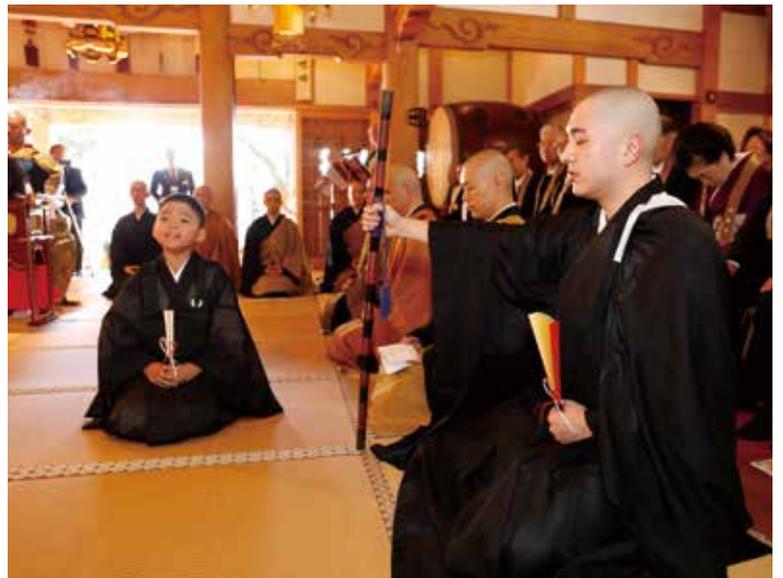


住職に代わり問答を交わす首座に竹簡を授けます



一生一度の緊張と決意で首座を勤める瑠璃光寺徒弟、久保恭男上座

問答のテーマを高らかに読み上げる辨事役の小学校3年生、賢崇寺徒弟、藤田俊雄君。お役目を終えた俊雄君は、これから小僧さんの道を歩み始めます



前日から始まった諸法要

首座入寺式、土地堂念誦、配役本則行茶

しゅそにゆうじしき

ちどうねんじゆ

はいやくほんそくぎょうちゃ

式典にあたって前日の22日、結制行事の配役を委嘱する配役本則行茶などの儀式が行われ、山門の興隆と行事の無事を祈願しました。



首座入寺式で翌日行われる法戦式の首座が任命されました



土地堂念誦では山門の興隆と行事の無事円成を願いました



配役本則行茶で結制行事の配役が委嘱されました